

平成27年度学校評価

1 自己評価結果等

前年度の重点目標	① 自己の在り方や将来の生き方を積極的に考え、学ぶ目的意識を明確にし、真摯に取り組む態度を育てる。 ② 商業高校の中心校としての誇りと自覚を常に持ち、地域社会から信頼され必要とされる学校づくりを目指す。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導 (生徒指導課)	<ul style="list-style-type: none"> 学校指定の防寒着、新スタイルの夏服導入を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品の選定 着用期間の検討 他分掌、同窓会、PTAと協議を重ね、導入を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度入学生から防寒着、新しい夏服を導入することができた。概ね好評である。
(2年学年会)	<ul style="list-style-type: none"> 活力ある学校生活を送らせ、こころ豊かな人間性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> HR、朝の学習活動等を有効に利用して、生徒のコミュニケーション能力を向上させ、こころ豊かな人間性を育む。 教育活動全体を通して、生徒が生き生きと取り組めるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行をはじめとする各行事において担任会、学年会の協力のもと生徒主体で取り組むことができた。 HR、行事等を通して生徒が主体的に取り組むことによって、コミュニケーション能力が向上し、活力ある学校生活を送ることができた。
(1年学年会)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立 生徒指導課と連携した、遅刻指導 身だしなみ指導の徹底 部活動と学業の両立 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席・遅刻・早退の目立つ生徒は少なく、授業規律も比較的確立されており、充実した授業展開がなされた。また、部活動と学業の両立もされており、基本的な生活習慣の確立ができた。
学習指導 (教務課)	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の見直し 言語活動の充実を目指した授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> 実施から3年を経過する現行の教育課程について見直しを行い、平成28年度入学生教育課程について検討する。 思考力、判断力、表現力を向上させるための授業改善の実践について、教科主任会を通して働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 高大接続改革を念頭に置きながら現行の教育課程について見直すことができた。 アクティブラーニングを取り入れた授業の実践については、その評価方法を含め各教科において、継続的に研究を検討依頼した。
(経理科)	<ul style="list-style-type: none"> 経理教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 経理に関する内容を理解し、会計情報を的確に捉え、判断し活用できる能力を育てる。 外部講師の活用により、上級資格への関心を持たせ、積極的に資格取得に取り組む環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の活用やグループ学習により、意欲的に学ぼうとする姿勢が生まれた。 発展学習により、上級の資格取得に関心を持つ生徒が増え、次年度につながる授業展開をすることができた。
(事務科)	<ul style="list-style-type: none"> マナー教育に対する効果的な指導方法と授業展開 	<ul style="list-style-type: none"> 講師招聘や連携教育を実施し、実務やマナーを習得させ、実践できる機会を数多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や連携教育で学習した内容を日頃から実践できる機会を設ける。 新科目の検討を小学科委員会で組織的に展開する。
(情報処理科)	<ul style="list-style-type: none"> 情報リテラシー教育の充実 新科目の指導方法の検証 	<ul style="list-style-type: none"> 情報活用能力の意義を理解させ、それを発信することも意識した学習態度を育てる。 小学科委員会を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「理解する」だけでなく、「使える」知識や技術を理解させる。 情報を活用し、分析し判断させる機会を設けるとともに、情報を受ける相手を意識させる。 研究内容の情報共有を図る。
(国際ビジネス科)	<ul style="list-style-type: none"> 国際化に対応した人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講演会や授業をすることで、国際的視野の涵養を図る。 外国語の習得を通じて、異文化間の相互理解力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期末に外部講師による講話や専門学校・大学との連携教育を実施するなど、年間を通じた取組となるよう努める。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導 (図書課)	・図書館の有効利用と利用マナー指導の徹底	・生徒のみならず職員に対しても図書館の利用を積極的に働きかけるとともに、魅力ある図書館づくりを心がける。 ・ここ数年道徳教育の一環として、図書館の利用マナー指導を行ってきたが、本年度も継続して指導の徹底を図る。	・昨年度と比較して利用者の大幅な増加はなかったが、生徒にとって身近で利用しやすい図書館になるように少しずつ整備が進んでいる。 ・図書館の利用マナーについては特に問題になるような事案はなかった。
進路指導 (進路指導課)	進路実現に向けた、早い時期からの意識付け	毎月発信する情報を確実に取り込むようにさせ、知る(考える)機会を通して進路を身近な問題として意識させる。	今年度の就職者は、動機の曖昧さから苦戦した者もいたが、求人活動の活発さに助けられ例年並みの結果を残すことができた。 進学者は、多種多様な職業に向けての進路実現を果たした。今後は、文系以外の進学を考える生徒に対する対応を学校全体で検討する必要が出てきた。
(3年学年会)	・生徒の能力・適性の自己理解と積極的な行動による進路希望の実現を目指す。	・生徒自身が自らの進路を主体的に考えて積極的に行動し、よりよい選択ができるように、適切な情報提供及び助言や指導に努める。	・学年会での情報交換、担任間の情報共有及び進路指導課との連携を密にし、より適切な指導・対応を心掛け、多様な生徒の進路希望に対応する。
生徒会活動 (生徒会課)	・ユネスコスクール指定校に伴う生徒会活動の体系化	・執行部と各種常任委員に全校生徒の意見を掌握させ、立案させる。 ・生徒会活動とユネスコクラブなどの部活動の連携を図る。	・生徒会が中心となって立案し、活動を促すが、全校生徒の取組を常に意識させるような活動を目指す。
環境美化 (保健課)	・紙ゴミの分別、再生への意識を向上させる。	・全生徒にゴミの分別を徹底させ、資源再生への意識を高めさせる。	・ゴミ分別を実行できたが、一部の生徒に負担が偏り、全生徒の意識を高めるには至らなかった。 ・学校全体の取り組みにするために、回収方法の改善を模索した。
P T A 行事 (総務課)	・教職員と連携を図り、会員の学校行事への積極的な参加を促しP T A活動を活性化する。	・P T A役員及び理事が主導してP T A行事の運営ができるように道筋をつける。 ・中学生体験入学や進路説明会の内容を、今まで以上に魅力あるものにし、参加者及び入学希望者を増やす。 ・学年会との連携を深め、家庭との連絡を密とする。	・P T A関係行事を充実させ、事前・事後の打ち合わせ、反省を徹底する。
情報管理 (教育情報課)	・システムを活用しての、円滑なデータ処理	・校務支援システムを活用し、安定したデータ管理及び処理を実現する。 ・今後活用できそうな操作をマニュアル化する。	・データ入力が可能ない項目の確認を実施することができた。また、年度途中での対応ができない項目があることを検証した。 ・マニュアルの作成については、検証後、時期尚早であると判断した。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・保護者及び地域・社会との連携を心掛け、本校の教育に対する理解を深めることに努めた。基本的な生活習慣を確立することや商業高校生として望ましい勤労観・職業観を育成することができた。地域の方々からも高い評価をいただいている。 ・ユネスコスクール加盟校として、これまでの活動を発展させつつ、全校が一丸となって、持続可能な発展のための教育を進めることができた。継続した活動を着実に展開していくことが課題である。 		

2 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した 主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力と特色ある活力あふれる学校づくり ・商業高校として信頼される学校づくり
<p>自己評価結果について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立を図ることはできたが、コミュニケーション能力の不足している生徒がみられる。 ・進路実現に向けて、さらなるコミュニケーション能力の育成と家庭学習の充実を図る必要がある。
<p>今後の改善方策について</p>	<p>個々の進路実現に向け、コミュニケーション能力の育成と家庭での学習習慣の確立を図る。</p>
<p>その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体に、子どもたちが産業界を担うチームリーダーになろうという使命感を持って活動している様子を強く感じ、素晴らしいと評価している。 ・地域の様々な行事に参加し、地域に密着している。これらの地域貢献活動を継続してほしい。 ・各種コンクール等での成功体験の積み重ねで自己有用感が得られる。仲間や先輩の頑張りや勇気づけられる波及効果も期待される。 ・笑顔と元気の良い挨拶があふれ、大変雰囲気が良い。子どもたちが活躍する場が多く用意されている。 ・スーパープロフェッショナルハイスクールとして計画されたプログラムが実施されていくことを期待している。
<p>学校関係者評価委員会の構成 及び評価時期</p>	<p>構成 保護者、地域連携・中高大連携・地域企業の関係者 評価時期：10月、2月</p>